

保育士が働きやすい環境について

東京都市大学人間科学部児童学科 3年 相談援助・社会福祉研究室

大澤 藍、高橋 莉子、松本 シュン、山岸 彩子

(保育士 働きやすさ 職場環境)

1. 目的

この研究発表の目的は、保育士不足の要因を調査し、保育士が働きやすい環境について考察することである。

私たちは、大学の授業で深刻な保育士不足の現状を学んだ。保育士不足が発生するひとつの要因として、離職率及び転職率の高さが考えられるが、それではなぜそのような状況になるのであろうか。コロナ禍においてもエッセンシャルワーカーとして重要な役割を担った保育士の社会的使命を考えると、保育士不足を解消することは緊急の課題である。今回の調査を通して、将来的に保育士不足が生じないためにはどのような取り組みが考えられるのかについて、学生の視点からの考察を行った。

2. 実践内容

- (1)調査方法 グーグルフォームを利用したアンケート調査。
- (2)調査時期 2021年10月
- (3)調査対象 関東近県の保育所（認定こども園も含む）10園に勤務する保育士82人
- (4)分析方法 単純集計による量的分析
- (5)倫理的配慮 無記名によるアンケートを実施し、データの取り扱いについては適正に行った。

3. 結果

今回の調査では、保育士不足や離職・転職が発生する主な要因として、次の6点が示唆された。

- ①給料に起因するもの ②仕事内容に起因するもの ③人間関係に起因するもの
- ④労働時間に起因するもの ⑤社会的地位に起因するもの ⑥その他の手当全般に起因するもの

特筆すべきこととして、「保育士の仕事は一般的にもう少し評価されてもよいと思いますか」という質問に対して、98.8%の保育士が「もう少し評価されている」と回答をしている点が挙げられる。

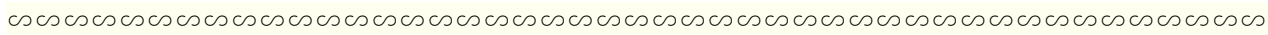


4. 考察と今後の課題

以上の結果を受けて、今回は学生である私たちができることとして保育士の社会的地位に焦点を当て、その視点を中心として保育士不足改善のための提案を行った。

具体的には、SNSを活用して保育士の魅力や重要性について社会に発信することにより、保育士の社会的地位が向上するとともに保育士という職業が再評価され、保育士を目指す人が増えるきっかけになると考えた。

今後の課題として、「保育士の社会的地位」以外の要因についても考える必要があるが、学生という立場からの考察では限界があった。また、サンプル数が少なく、調査した保育所に地理的な偏りがあったため、一般的な傾向を示していることにはならないことが考えられた。



<助言者コメント>

樋口 美津子（子どもの生活研究所めばえ学園長）

.....

学生達の保育士不足の要因や働きやすい環境についての考察や調査発表は、今どの支援現場でも課題となっている人材確保、人材定着について改めて考えさせられるものでした。

調査の中で保育士不足や離職・転職が発生する主な要因として示唆されている内容や保育士の社会的地位や評価について、「もう少し評価されてもいい」と感じている保育士が多いこと等挙げられていましたが、頷けるものでした。

保育士は国家資格であり、子どもの命を預かり守り、子どもの最善の利益を尊重し、そして豊かな人間性を持つ子どもを育成するという重要な仕事です。生涯にわたる人間形成の基礎を養う乳幼児期に、家庭養育や地域養育の補完として、ある意味社会を代表して子どもの発達を支えているのです。現場で働く保育士はやりがいや仕事への意欲をどれだけ、どのように持つことが出来ているのでしょうか。子どもの今後の人生につながる生きる力を育てていくことは大変重く、難しいことです。自分自身の心を見つめることから、自己研鑽をしながら、子どもの気持ちに寄り添い、人との関係や交流の大切さを伝えていくのです。愛情と技術を遺憾なく発揮し、そして同じ働く仲間と共にお互いのことを話し、同じ方向にまなざしを向けていくことができれば、そこには保育士としての役割と自覚、また手応えを感じることが出来るのではないのでしょうか。

学生達が保育士の魅力や重要性について社会に発信すること、保育士の社会的地位の向上と職業の再評価について考える取り組みは、現場で働いている私達にとって、奮い立たせてくれるものであり、大きな力となります。同じ仲間や学生達が「自分もこの仕事がしたい」と思えるよう、もっと保育士の仕事の価値や魅力を社会に発信していくこと、やる気になる職場づくり、人材定着、育成の取り組みに真摯に取り組んでいかねばという強い思いを感じさせくれる発表でした。